

☆☆めざす児童像：「気づく子 学ぶ子 元気な子」☆☆

大村市立大村小学校
学校だより

感じて動く

文責：校長 高木 修
令和6年1月9日 No.19

☆☆子どもが「喜んで登校し 満足して下校」する学校づくり☆☆

◆ 3学期スタート

新年あけましておめでとうございます。
令和6年（2024年）が、皆様にとって素晴らしい1年
となることを心からお祈り申し上げます。

18日間の冬休みが終わり、今年度も後は3学期を残す
のみとなりました。大村市の「3学期制」では、1学期が
「基礎期」、2学期が「充実期」そして、3学期は「飛躍期」
と位置づけてあります。1年間の総まとめとして、子ども
たちがこれまでに身につけた力を深めたり、次の学年につ
なげたりと「飛躍」の学期となるように、職員一同、気を
引き締めて取り組んでまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、3学期も学校教育活動への
御理解と御協力をよろしくお願いたします。



～ 新しい年を迎えましたが… ～

左の写真は、自宅から「初日の出」を撮影したものです。天気予報では「曇り」ということで、今年は見ることができないかとも思っていました。空は意外と晴れており、雲の切れ目から姿を現したところを写真に収めることができました。

「令和6年が、素晴らしい1年となりますように」

初日の出にそう願ってスタートした「令和6年」でしたが、当日、夕方に緊急地震速報が…。北陸地方での大地震発生と、それに伴う津波に関するお知らせに、一気に緊張感が高まりました。その後、続けて何度も余震が起こり、ついには「大津波警報」まで出てしまう事態に、ただただニュースでの「すぐに避難を！」というアナウンスの強い呼びかけを聞きながら、大きな被害が出ないことを願うことしかできませんでした。しかし現実として、石川県能登半島を中心に、地震や津波による被害はとても大きなものでした。状況

が明らかになる中で、亡くなった方の数も増えていっています。改めて自然災害の恐ろしさを感じるとともに、我々は自然災害と隣り合わせに暮らしているということを実感しました。荒ぶる自然の驚異がここ数年続いており、日本全国、どこにいても起こる可能性があります。実際にそれは、正月であっても容赦なく襲いかかってきました。新しい年を迎えた初日に、上記のように「おめでとう」の挨拶を交わす正月に…、そんな気持ちも重なって、悲しみや怒りで胸がとても痛くなりました。衝撃の幕開けとなり、動揺は隠せませんが、本校では3学期が始まり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。陸続きの地での深刻な状況を注視しながらも、健康や、安心・安全という面での危機意識をしっかりと持ちながら、今できることに精一杯取り組んでいきたいと思っています。